



The Rotary club of Kobe East Bulletin
神戸東ロータリークラブ会報



No.373 2013-2014 No2

表紙絵：太原 震也元会員

会長／野々村 禎之 副会長／岡 栄治 幹 事／須藤 雄二 雑誌会報委員長／田中 寿夫 副委員長／四方 克明
例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日

クラブ会長テーマ 「みんなでさがそう 新しい芽」



RI President

Ron D. Burton
2013-2014年度国際ロータリー会長





「CLPって何だ」

パストガバナー 久野 薫

神戸東ロータリー・クラブの皆さん今日は。久しぶりにこの演壇にたつこととなります。私はよもや再びこの演壇に立つことはなかりうと思っておりましたが、卓話を依頼されて驚きました。それに演題は「CLP」でお願いしますといわれて二度びっくりいたしました。それというのも神戸東ロータリー・クラブは伝統と格式を誇るクラブと呼ばれてきた大型クラブであります。そのクラブがいわば「クラブ強化計画」とも言うべき CLP 問題を議論の遡上にあげるといふのに意外な感じをもったからであります。

実はこのたび「未来委員会」という長期計画委員会の中で「CLP ワーキンググループ」を立ち上げて CLP を含めた神戸東ロータリー・クラブの将来像を練り上げようとする作業が開始されたのです。本日の卓話はその一環なのです。

さてそこで CLP のお話をいたします。似たような言葉に DLP という言葉もあります。最近はやたらに横文字の略語が氾濫して戸惑いを感じます。CLP とは Club leadership plan の頭文字をとったものです。因みに DLP というのは District leadership plan の頭文字をとった略語なのです。国際ロータリーは何故こんなにリーダーシップ、リーダーシップという

のでしょうか。かえって中身を曖昧なものにしてしまっております。「CLP」は「クラブ強化計画」「DLP」とは「地区強化計画」といった中身を持ったものなのです。CLP が導入されて 9 年、DLP が導入されて 11 年になります。言葉は定着しても中身は理解されていません。しかし国際ロータリーの推奨クラブ細則は CLP に準拠したものになっています。

何故クラブは強化されなければならないのでしょうか。実はその出発点は今に始まったものではなく 1987 年～88 年（チャールズ・ケラー RI 会長）にさかのぼりますがその話までいたしますと話が複雑になりますので省略いたします。一般論を語ります。国際ロータリーは組織であります。この組織の基盤は国際ロータリーが認証したクラブです。会社や組織の最高経営責任者は組織が衰退したり消滅しないように守る必要があります。会社はいくら今、経営がうまくいっていてもいつまでも同じことを繰り返して、時代の変化、環境の変化に応じられなくなっていつの間にか衰退の道を歩み始めることがあります。組織には時代、環境の変化に応じた柔軟性、革新性が求められるのです。国際ロータリーという組織も同様であります。

この一般論に加えて国際ロータリーのロータリーに対する認識は従来のそれとは違ってきております。「ロータリーは人道的奉仕活動をするための世界的ネットワークである」という認識であります。そして「各ロータリー・クラブはこのネットワークの一単位にすぎない」と認識されているのです。ネットワークの一員でありますから各単位は強化されなければ全体の力は向上しないと考えるわけです。実はこの考え方は危険です。国際ロータリーと各ロータリー・クラブは完全対等で互いに独立した自治権を有しているはずで、クラブは単なる国際ロータリーの歯車の一員ではないはずで、しかしことの是非はともかくとしてこのような現

状にあるのです。

クラブ強化計画といいますが具体的な形、手法が提示されているものではありません。クラブの欠点を補い長所を伸ばすためにたな卸しをして下さいという意味であります。クラブの力は「会員数」、「会員の質」、「クラブの環境」の3要素で決まります。この3者は強く連動して動きます。基本は「環境」にあります。良い環境は会員数の増加、会員の質の向上につながります。逆に環境が劣化しますと逆の連動を生むのです。クラブが効果的でなくなると、つまり弱体化しますとそれは会員数の減少として現れます。しかしこうなった時はもはや手遅れなのです。そうならない前に気づく事が肝要であります。

2000～2001年度RI会長はメキシコのフランク・デブリン氏でした。そのRI会長テーマは「Create Awareness - Take Action」(意識を喚起し、進んで行動を)でした。今世界のクラブで2極化が起こっています。自分達のクラブはこのままではいけないと気づいたクラブとこのままの居心地の良い仲良しクラブでよいと考えているクラブとの2極化なのです。そして後者は気づいた時にはもう取り返しのきかないところまで来てしまっているのです。今や「Awareness and Action」が求められているのです。

神戸東ロータリー・クラブはどうでしょうか。創立60周年を迎えようとしております。会員数は1991年の134人というピーク時に比べると105人と22%ほど減少してはいますが当地区では神戸RCに次ぐ大規模クラブであります。しかしだからと言って安閑とはしておられないのです。「平和と繁栄の中に潜む危機」という言葉があります。「第3の男」というイギリス映画がありました。イギリスの小説家グレーム・グリーン原作であります。その中に

オーソン・ウェルズ演じる主人公のハリー・ライムが親友のジョセフ・コットン演じるマーティンズに語った有名な台詞があります。「イタリア貴族のボルジア家の30年間の圧制はミケランジェロ、レオナルド・ダ・ビンチを生んだが、同胞愛、500年にわたるデモクラシーと平和が生んだものは鳩時計だけじゃないか」というものです。まさに「平和と繁栄の中に潜む危機」であります。60年経つからこそここで一度柵卸をしなければならぬと気付くべき時期が来ているのです。過去は所詮過去であります。

なぜ会員数が減少するのでしょうか。所属するクラブが楽しくない、面白くないからです。RIは会員数の減少によって消滅したクラブを分析しました。退会者総数の70%は健康、仕事等やむをえない理由での退会でしたが、残り30%は曖昧な理由でありました。この30%の内訳は70%はクラブに指導性がない 20%はクラブに魅力がない 10%は奉仕活動が地域のニーズに合致しない奉仕の為の奉仕に墮しているということでした。

国際ロータリーが提唱するCLPを支える基本原理は4つあります。会員組織の維持拡大 成果のある奉仕活動の実践 財団の支援 クラブレベルを超えた指導者の育成の四つであります。

この基本原理を実践する具体的な方策を考えてみましょう。クラブの力は会員数、会員の質、会員が活動する環境の3要素で決まります。CLPとはこの環境にメスをいれることなのです。具体的に示します。環境を構成する要素はクラブ運営 親睦 人材開発育成であります。クラブ運営を構成する要素は3つあります。委員会運営 例会運営 奉仕プロジェクトであります委員会運営にはハード面としての委員会構成、ソフト面としての委員会運営のや

り方があります。これらの要素が神戸東ロータリー・クラブではどのような現状にあるかを分析すれば自ずとクラブ強化の方策が見出せると思います。クラブ強化の為に分析すべきチェックポイントをまとめますと八つあります。 委員会構成は妥当か 委員会運営に心が込められているか 例会運営は会委員中心の卓話になっているか 奉仕プロジェクトが社会のニーズに合っているか クラブ内親睦はどうか。感性的親睦だけではなく精神的親睦まで高められているか 人材育成はできているか 教育的リーダーと創造的なリーダーがいるか、そして最も大切なチェックポイントは 会員の多様性を許容する豊かな環境になっているか。

委員会構成として RI 理事会が提唱してきたのは常任委員会として 会員増強委員会 公共イメージ委員会 管理運営委員会 奉仕プロジェクト委員会 ロータリー財団委員会の5つであります。勿論クラブの規模に応じてこの基本に枝葉をつけていけばよいことになります。

私の提案としては神戸東 RC では会員増強委員会に加えて情報研修委員会を設置する。未来委員会（長期計画委員会）を設置して向こう3年程度の長期計画を立てる。それに会員増強委員長を理事役員会のメンバーに入れて会員増強をクラブ全体で取り組む体制を作る。そしてこれらの全般を指導するクラブ研修リーダーを設置すればよいと思いますし、このクラブ研修リーダーは長期計画委員会委員長兼任として3年間の継続性を持ったリーダーとしたらどうかと思います。またこのクラブ研修リーダーは理事役員会の無任所理事にしたらどうかと提案いたします。全てはクラブの理事会が決定する事です。

委員会構成というハード面だけの改革ではなく、ソフト面の改革が必要であります。ソフト面の改革は会員の意識の問題となりますから、

一朝一夕に成し遂げられ事でもなく、また CLP は一度行えば済むということではなく繰り返し見直しが行われる事が必要なのです。

じっくりと神戸東ロータリー・クラブの将来像を練り上げて更なるクラブの発展につなげていっていただきたいと思います。

ご清聴有難うございました。



1年の留学生活を終えて

青少年交換派遣生

木下茉莉華

神戸東ロータリークラブの皆様、こんにちは！ 昨年の8月から今年の7月までの約1年間、国際ロータリー 5080 地区、アメリカのワシントン州にあるスポケーンという街に1年間派遣していただきました、木下茉莉華です。この1年間は、毎日が私にとって大きな挑戦と限界の壁の連続でした。大きな壁と直面した時、私のことを親身になって支えてくださった神戸東ロータリークラブの皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。神戸東ロータリークラブの皆様が私をスポケーンという街に派遣してくださったからこそこんなにも、たくさんの素晴らしい人々に出会い、友好を深めることができました。1年前に勇気を出して踏み出さなければ決して出会うことができなかった人々である、スポケーンロータリークラブの会員の方やホストファミリー、またアメリカで私と同じように留学をしていた同志や、学校でできた友達とのきずなはこれからの人生で色あせることなく私の心の中にあり続けます。この派遣で笑顔の大切さを実感しました。留学中話している言葉がわからなくても、肌の色が違ってても、世界中の人々が共通で理解する行為が笑うことでした。笑顔は自分が幸せな気持ちになるだけでなく、周りにいる人も幸せにします。周りがネガティブな雰囲気にいる時こそ私自身からポジティブな空気を出していくことこそが留学中に学んだ大切なことのうちの一つでした。派遣期間を終えて、また日本の生活が始まりました。いつも自分は一人じゃない、周りの人に支えら

れながら今の自分があるのだということを胸に、これからは、派遣経験で得た国際的な視野で世界を見、また日本に来ている留学生をしっかり支えていくことなどに、積極的に取り組んでいこうと考えています。

目指すは、ロータリー派遣生の大先輩であられる緒方貞子さんのように必ず、日本のみならず、世界に貢献できる人材に必ずなることです！このような機会を私に与えてくださった神戸東ロータリークラブの皆様、本当に、本当にありがとうございました。



私の愛するホストファミリーと、空港にて



学校でやっていたミュージカル



スポケーンロータリークラブで行ったスピーチ



お別れパーティーに集まってくれた友人たち



「米山月間に因んで」

米山奨学生

トラン・バン・フン

私の名前は Tran van Hung です。ベトナムホーチミン市出身です。ホーチミン市心臓病専門センターで心臓病専門の医師として働いていました。現在は神戸大学大学院医学研究科博士課程の4回生です。

- 大学院の研究内容 -

私は肺高血圧症の研究をしています。肺高血圧症は心不全のため死に至る難病です。日本に約20万人、ベトナムに約40万人の患者がいます。未だ有効な治療法はなく、新たな治療戦略が求められています。

私は、世界で初めて、人の重症肺高血圧症と似た状態になるモデルマウスを作ることに成功しました。このモデルマウスは、肺高血圧症の研究をするのにとっても役に立ちます。私はこのマウスを使い、肺高血圧症がなぜ起こるかを研究しています。私は、2013年9月エンドセリン国際会議で研究成果を発表し、young investor awardを受賞しました。

- 日本へ留学するきっかけ -

私はベトナムで多くの肺高血圧症患者を診ましたが、治療の甲斐なく亡くなる方がほとんどでした。そのため、有効な治療法を研究するため、肺高血圧症の研究で有名な江本憲昭先生がいる日本に留学したいと思うようになりました。

私には日本への留学経験のある友達が多数おり、彼らに日本の事を聞いたところ、「安全で生活が便利」「留学生に熱心に指導してくれる」「研究環境がとてもいい」「最新の機械がある」「才能

のある教授が多い」「多くの活動的な研究者がいる」とよいところをたくさん教えられました。

また、日本は多くの自然災害や戦争を経験し、自然の資源も限られています。そうしたものを乗り越えて、日本は先進国のひとつになりました。私はそんな日本人の精神と努力を尊敬しています。だから、私は日本で研究し、色々なことを学びたいと思いました。

- 日本で特に印象に残ったこと -

- ・日本人は働き者で、仕事に誇りを持っています。また、とても親切で、友好的で、きれい好きです。そして、時間を守り、自然環境を守ります。

- ・ベトナムのお年寄りには家に閉じこもり、健康にもあまり気を遣いません。しかし、日本のお年よりは運動したり、カロリーが低い食べ物を食べたり、健康を考えた生活をしています。ボランティア活動にも参加します。

- ・日本では1人の医師が診る患者数は毎日30人くらいです。また、1つのベッドに1人の患者さんが寝ます。対して、ベトナムでは1人の医師が毎日100人以上の患者さんを診ます。1つのベッドに3人の患者さんが寝ることもあります。

- 大学院卒業後の計画 -

日本で勉強した肺高血圧症の知識や技術をベトナムの患者の治療や研究に役立てるため、肺高血圧患者のための専門部署をつくり、治療を行うつもりです。診療時にお年寄りが来た場合には、日本のお年寄りのような生活をするようアドバイスしていきたいと思います。また、私が日本で得た知識や技術を、ベトナムにいる同僚や学生たちに伝えていきたいです。海外、特に日本との共同研究をたくさんしたいと思います。

- 私の夢 -

私はベトナムの肺高血圧症患者と貧しい子供の患者の命を守りたいです。将来、可能であればベトナムにロータリークラブを作りたいと思います。

- 感謝の言葉 -

皆様の援助のおかげで、研究に専念できましたことを感謝します。特に、私のカウンセラーである三戸岡先生と向井さんには大変お世話になりました。深く御礼申し上げます。この奨学金を得たことを誇りに思います。



佐井 奇正

- 益順貿易 -

再入会の佐井です。前回、こちらのクラブにお世話になりましたのが平成7年6月でした。山本康一郎君を誘って一緒に入会しましたが、約1年後に急性膵炎を患い、止む無く退会という事になりました。

生まれは昭和23年65才です、団塊の世代で小中学校ではとにかく人数との戦いでした。

高校は御影高校で、1年生の時に東京オリンピックがありました。

大学は同志社大学商学部です。当時70年安保の学生運動の一番激しい大学で、2年程休校になり授業もほとんどなく、適当なレポートだけで卒業させられました。

今年の大河ドラマ「八重の桜」は、同志社大学を創設した新島襄の妻、八重の生涯を描いた作品です。八重は福島県会津の出身で、前半は幕末時代の会津藩の不運や、人々の悲劇などが描かれ、後半は新島襄と八重が協力して同志社を創設して行く話です。

過去にもたくさん的大河ドラマを見てきましたが、毎回、ボロリと涙する大河は今までなかったのではないのでしょうか？すばらしい作品だと思っております。

大学卒業後、父の経営する益順貿易株式会社に入社。台湾出身の父の田舎が産地である草で編んだ Panama 帽子などの草製品、繊維製品、家

具や雑貨などを輸入し、国内の間屋やメーカーに販売しておりました。

為替の急激な変動には驚きました。1ドル360円から200円代、100円代とどんどん円高が進み、輸入が主体の当社では、新しく仕入れる商品は安く買えますが、在庫商品の評価が下がり単価が下がり粗利も下がって行くという苦勞がありました。我々の年代はコンピューター、ITの発展とともにあったように思います。

会社経営も機械化の課題と格闘していく中、この事業からの撤退を決意させる出来事がありました。それは、「トヨタの看板方式」です。年々商品の出荷単位少なくなり数年分の在庫が山積みされるようになりました。その頃、バブル崩壊、阪神淡路大震災があり、事業縮小にはずみがつき、事業からの撤退をして行きました。現在は小さな規模ですが、賃貸業を営んでおります。

私の三人の子供はそれぞれ、長男37才は、今年結婚、ペルーで日系企業に勤務しております。長女36才は、去年インド系カナダ人と結婚し、芦屋在住で今月男の初孫が誕生いたしました。次男34才は、独身で大阪在住です。

趣味は旅行で、去年春にはカリビアンクルーズに行ってきました。ゴルフは生涯2回ホールインワンをしています。2回とも同組で回った人が東ロータリーに2人いらっしゃいます。田中健三さんと井元君です。月に1回囲碁の会をやっています。

ご清聴、大変ありがとうございました。



前田 正学

- 大和証券 -

自己紹介ということで改めて自分について考えてみた時に、会社員人生ということで、簡単に表現してしまえば、主任になって、課長になって、次長になり、その次に部長に昇進しました。と、たいへん薄っぺらなものになってしまうように感じます。ですから、自分の紹介は少しにとどめ、私が業にしているマーケットの話を少し交えてお話しします。

略歴の中でひとつだけ誇りにしているのは出身高校で多数の偉大な先輩が卒業生である歴史ある高校を卒業したくらいですが、主な先輩に前日銀総裁の白川方明氏がいます。

大学を卒業して入社したのが現職の大和証券。私自身、マーケットのプロですが、バブルのピークに証券会社に入社したことから、人生における相場感は皆無に近いようです。現在私の勤務している神戸支店は、大和証券（128店舗）の中で6番目の規模の支店で、現在の商号に変更後70年（前身である藤本ビルプロカー時代を含めれば110年以上）の歴史のある支店でもあります。こうした規模も歴史もある店舗を担当していることもあり、微力ながら本業を通じて社会に、ご当地神戸に少しでも貢献してお役に立てる仕事が出来ればと考えています。

マーケットを通じて日本経済の今後について

考察し予想する上で、最も重要な要素はドル円の為替レートが今後どうなるかを予測することだと思われます。ドル円の為替の変動の歴史を振り返ると13年から14年の周期性があり、概ねこの期間ひとつの方向性を持って動き、トレンドを作っていることがわかります。ニクソンショック、プラザ合意、政府・日銀の大規模為替介入、直近の75円までの円高は概ねこの期間サイクルで起こっており、ここを基点に大幅な変動が起きました。今回のサイクルは75円の超円高を基点に始まっており、今後十数年間大幅な円安が続いていくと考えています。日本の基幹産業である自動車、電機産業はこうした円安トレンドの中で競争力を取り戻す可能性は十分あり、言い換えればものづくり大国日本の復活は近いと楽観しています。

働く場所もタイミングも最高である今、自分の力を出し切っていきたいと思います。諸先輩方に比べ未だ経験不足な私ですが、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



菅野 和 矢

- 神戸メリケンパーク・オリエンタルホテル -

ただ今、ご紹介いただきました神戸メリケンパークオリエンタルホテルの菅野でございます。松下会員と野田会員のご紹介をいただきまして、6月末から伝統と格式ある、神戸東ロータリークラブへ参加させていただいております。

弊社の社長、総支配人など、さまざまな役割を歴任してこられた松下衛会員には、ご在職中の頃から公私にわたりご指導いただき、現在もなお進行形で色々なご相談をさせていただいております。

私は、1973年に須磨区で生まれ、育ちも神戸であります、現在は、中央区に住んでおり、家族は妻と幼稚園に通う5歳の娘がおります。妻は以前同じ会社に勤めていましたが、現在は、そのキャリアを活かして神戸市兵庫区役所でサービスの向上に尽力しています。趣味は旅行と今年よりジョギング・ウォーキングをはじめました。

経歴の方は、須磨北中学校、須磨友が丘高校で学び、その後、神戸YMCA学院専門学校に進み、主に観光・ホテル業界を専門に学びました。

社歴は、1996年、現在の神戸メリケンパークオリエンタルホテルに入社いたしました。

ホテルの開業は、阪神大震災の年でもある1995年7月であります、今年で18周年を迎えその内の殆どの期間をホテルと共に歩んでおり

ます。

入社後は、宿泊部に配属、その後は、販売促進部、婚礼宴会部、営業部などに配属され、現在に至るまでは、15年以上営業一筋で、主に地域のお客様と関わらせていただいております。

また、社内プロジェクト事業を通して他業種・他社との協同で新規商品のタイアップ企画や商品を計画、販売することなど、色々な機会にも多く恵まれました。

今、現在は、セールスとマーケティングに関する職務をしております。内容としてはホテル全般に関するセールスとマーケティング、ディナーショーなど全館に関わる企画を行っております。また、2007年から一般社団法人神戸青年会議所に入会いたしまして、唯一2008年度「優秀新人賞」を受賞しました。約7年間の入会期間でしたが、いろいろな委員会に所属し、今年末によろやく卒業することになります。

会社は、2002年頃、ダイエーから、ゴールドマンサックスグループの資本に変わり、外資系のホテルへと変革が続きました。現在の弊社(ホテル)のオーナーは、ジャパン・ホテル・リート投資法人となり、私どもは、傘下のオペレーション会社、株式会社ホテルマネジメントジャパンの所属となります。

現在のグループホテルとしては、「オリエンタルホテル東京ベイ」「なんばオリエンタルホテル」「日航ホテルアリビラ(沖縄)」「広島オリエンタルホテル」と「神戸メリケンパークオリエンタルホテル」の5つのホテルが、ホテルマネジメントジャパンによる運営になっております。

今回、私の社会人、人生の中に於いても、ロータリークラブさまとのご縁はないだろうと思っておりましたが、このような機会を戴くにあたり、地域貢献等に少しでもお役にたてるよう精一杯尽力いたしたいと思っております。若輩者ですが、何卒よろしくお願い申し上げます。

東北仙台方面へ 親睦家族旅行を開催

2013年11月17日~18日 参加者29名 1泊2日の旅



今回の旅行は、一昨年の震災で尊い多くの命が奪われ、復興手立てに未だ目処が立っていない地域を回り、津波被害の爪あとと又、亡くなられた方々への鎮魂を目的とし、地域にわずかながらも活力の一端になれることを願う旅としたところ、両日とも最高天気にも恵まれ、一日目には、石巻中学校の梅沢先生に被災地並びに慰霊

場所にご案内を頂き、更には、生徒たちによる、歓迎の合唱をしていただき、多くの感動をもらいました。二日目は、仙台観光を行い、この地へ着てよかったと心から思える、思い出深い最高の旅となりました。

(親睦・家族委員長 松井 照男)



親睦・家族忘年会を第一楼で開催

2013年12月26日 118名の参加



午後5時30分より今年度
最後なる移動例会を開催し、午後6時より野々
村会長挨拶の後、赤木パストガバナーの乾杯を
スタートに親睦家族会が始まりました。終始和
やかにご歓談頂き、お楽しみ抽選会には、理事、
役員及び委員長の皆様、そして有志の会員様よ

り41点の商品提供を頂き、心より感謝申し
上げます。そして、今回は、歌手「あべ静江」
を招いてディナーショー形式で行い、少しオ
シャレで心温まる、思い出深い忘年家族会が開
催できたものと思います。

(親睦・家族委員長 松井 照男)





2013年11月2日 180名の参加で



2013年10月25日(木)、王子動物園絵画教室のため動物園に対し園内案内板、ベンチ、画板を寄贈しました。王子動物園園長・副園長、RCから地区補助金小委員長、地区委員、当クラブから本年度・次年度役員他多数の方にご参加頂き、無事贈呈式・除幕式を行うことが出来ました。

11月2日(土)絵画教室本番。子供達と保護者あわせて計180名が参加しました。当クラブから本年度役員、青少年奉仕委員他多数、ローテックスからも参加協力を頂きました。当日は連休

中のため家族連れで園内が賑わう中、園内巡視、水場清掃、会場設営等いろいろとご協力頂きました。王子動物園さんからは「RCさん、さすがですね。大変スムーズに進行しびっくりしています」との言葉を頂きました。子供達の力作を目にして、永田萌さんからも、「是非来年も行いたいですね!」とニコニコ顔で言って頂きました。

ご協力頂いた皆さま、この場をお借りしまして、心よりお礼申し上げます。

(青少年奉仕委員長 土田 剛司)

青陽東養護学校招待ボウリング大会を盛大に開催

2014年1月17日 300名を超える参加で



平成26年1月17日金曜日六甲ボウルにおいて神戸市立青陽東養護学校の生徒達を招いてボウリング大会を開催しました。先生・生徒合わせて約300名と神戸東ロータリークラブのメンバー18名でボウリングを通じて人とのつ

ながり、大勢の仲間と遊ぶことの楽しさを体感していただき盛況のうちに閉会致しました。

(社会奉仕委員長 井元 憲生)

創立 60 周年記念 合同例会開催



1月7日(火)創立60周年記念として、会長テーマである【みんなでさがそう新しい芽】の実践をすべく、神戸第1グループ内で当クラブが単独スポンサーとなり設立されたクラブ及びその孫クラブとの初めての合同例会を開催した。

参加クラブ及び参加人員は、神戸東灘 RC：東石 譲会長以下 27 名、神戸六甲 RC：東國隆会長以下 14 名、神戸ベイ RC：北浦 浩会長以下 22 名、神戸東プロバスクラブ：藤原 儀直会長以下 21 名、神戸東 RC：野々村 禎之会長以下 100 名、であった。

当日は、例年の如く、11時半より川嶋会員のお世話によりお茶席を楽しんだ後、12時半より以下の要領にて合同例会を行った。お茶席に掛けられた軸（松風）は、有馬記念の提唱者である有馬頼寧の孫で、今生天皇の御学友でもある有馬 頼底 臨濟宗相国寺派管長に、今回ロータリアンの為に書いて頂いたとのこと。日頃忙しい会員の方々にこのお茶席で釜のたぎ

る音（松風）を聞き心を静めて一啜のお茶を召し上って頂くおもてなしとのこと。

合同例会次第

- 1．開会点鐘
- 2．国歌、ロータリーソング
- 3．参加クラブの紹介
- 4．ニコニコの報告
- 5．年男、年女の紹介
- 6．鏡割り
- 7．乾杯
- 8．会食、懇談
- 9．閉会



例会場の着席場所については、他クラブの方々が神戸東クラブの会員の輪の中に着席されるように配慮した。また、メインテーブルには、各クラブ会長、神戸第1グループガバナー補佐、パストガバナー、60周年実行委員長、当クラブS.A.A.とした。

参加クラブ紹介では、各クラブ会長の挨拶の後、そのクラブ会員の方々が会長の掛け声で起立した。ニコニコの報告は、合同例会に関わるもののみとし、各クラブとも1月誕生日等の発表は次週廻しとした。

鏡割りは、パストガバナー、ガバナー補佐、各クラブ会長、60周年実行委員長、及びS.A.A.と、各クラブの年男、年女の代表者が壇上で

法被を着用し実施した。これに続いて、苦瓜頭一ガバナー補佐の音頭にて乾杯し食事懇談に移った。食事懇談後、14時に中締めとし、歓談中の方々には14時半までお残り戴いた。

初めての開催で、準備や運営に色々不慣れで不備な所が多々あったと思われるが、他クラブ執行部、会員及び事務員の方々に、多大なご理解とご協力を戴き何とか開催できたことを、この紙面をお借りして感謝いたします。また、当クラブの60周年実行委員会、親睦家族委員会、会員各位や事務局、ホテルオークラの担当者の方々にもお礼を申し上げます。

幹事 須藤 雄二



7月23日 「もっと知ってください、盲導犬のこと。」
社会福祉法人兵庫県盲導犬協会 理事・事務局長 吉川弓子氏
啓発担当 青木淳子氏・盲導犬 ウィッシュ



9月3日 職業奉仕月間に因んで「二宮金次郎のついて」
リレイト代表 中桐万里子氏(京都大学博士:教育学)



7月30日 職業奉仕月間に因んで「持続可能性論」
京都大学経済研究所 准教授 佐藤正弘氏



9月17日「日本のインテリジェンス・コミュニティの現状と課題」
兵庫県警察本部長 塩川実喜夫氏



8月6日「臨時総会決算・予算」60周年に向けて
60周年実行委員長 野田晴清 会員



10月8日「どんなところ王子動物園」
王子動物園園長 高井昭氏



8月27日 「我が町の未来」
榎野孝人 会員



10月29日「陸上自衛隊の概要」
陸上自衛隊中部方面總監部 広報室長 2等陸佐 野々上美智明氏



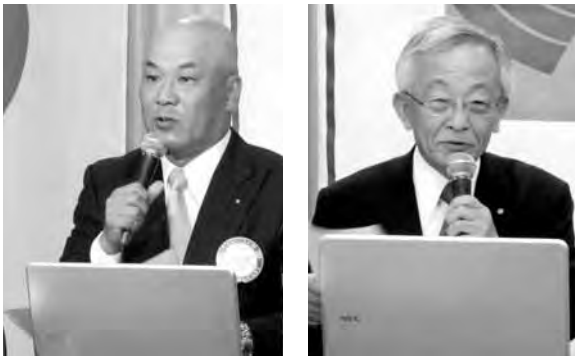
11月5日「午後の憩い」

ピアノ演奏 上平田 亜 夕 氏



12月3日年次総会

会長（次々年度）次年度理事役員選挙



11月19日「ロータリー財団に因んで」

ロータリー財団委員会 委員長 尾山 宣 道 会員
地区委員ロータリー財団委員会（資金管理小委員会）小委員長 松 下 衛 会員



12月10日「家族の絆」

松本 隆博 氏



11月26日「やる気とか元気が出る『えんぴつポスターの話』」
神戸学院大学講師 金 益 見 氏



12月17日「生活の中に取り入れる東洋医学養生法 治未病 120歳まで健康で」
神戸中医美容整体学院 理事長 永藤 香代子 氏



1月21日「31歳の母が選んだ起業家という生き方。女性視点の経営とライフスタイル。」
文 美月 氏



1月28日「観光とは？光を観ること!!明るく楽しい所には集う。」
カリスマ添乗員 平田 進也 氏



2月4日「知っていますか？この人を！」
会員紹介（実験的試みとして）
ラジオパーソナリティー 上北 夏味 氏

余韻会 (俳句同好会)

平成二十五年九月二十日 於 西村屋 花みかげ

高く活け低く活け添へ月の供華	本郷 桂子
ひと嵐過ぎたる朝の秋気かな	執行 執艸
名月と盃を重ねて陶然と	高石 潜菴
ひまはりや照る日も降る日も面あげ	白羽 子誠
按摩券敬老の日のプレゼント	則岡 弘士
鏡見て夜食我慢をしてをりぬ	吉井 聖倅
月の道口笛吹けば生き生きと	松原 氣宏
戴きし今日の夜食のカステラ	池西 清栄
夜を更かし夜食とるかと妻の問ふ	神品 平
ほろほると山鳩啼くや秋寂し	橘 恵子

余韻会 (俳句同好会)

平成二十五年十月三十一日 於 西村屋 花みかげ

肌寒や山の日差しの逃げしより	本郷 桂子
肌寒し雨は音なく湖に降り	執行 執艸
嵐去り湾鎮まりて肌寒し	高石 潜菴
風のまま秋明菊の揺れてをり	白羽 子誠
色づくも色づかざるも蜜柑畑	則岡 弘士
新聞の重き朝や秋深し	壺井 仙岳
肌寒や猫が近寄り抱き上げる	吉井 聖倅
肌寒や何はともあれただ歩く	松原 氣宏
肌寒や淡き日差しの裏通り	池西 清栄
今日からは新米ですよと妻が言ひ	神品 平
めぐり来る月日思はず今年米	橘 恵子

余韻会 (俳句同好会)

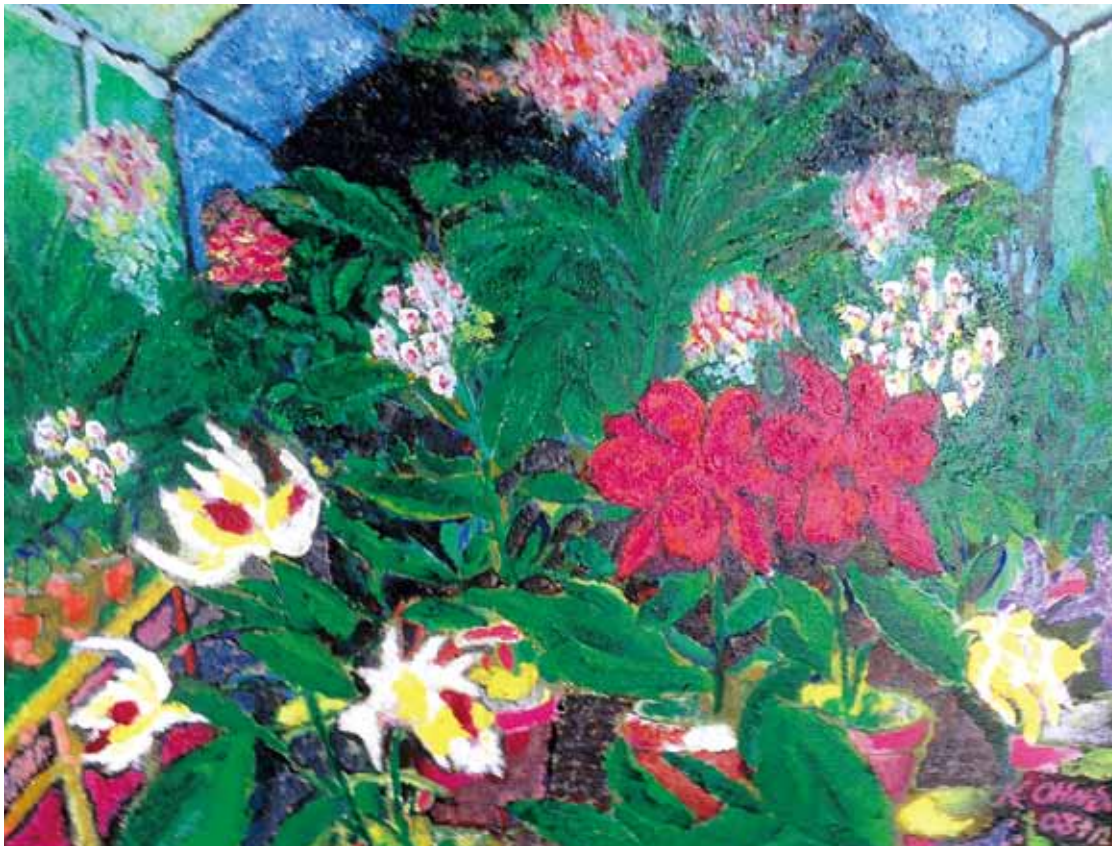
平成二十五年十二月六日 於 西村屋 花みかげ

一碗の牡蠣飯の香でありにけり	本郷 桂子
日記買ふオリンピックへあと七年	執行 執艸
妻刻む包丁の音冬めきぬ	高石 潜菴
生がきの磯の香りがテーブルに	白羽 子誠
うとうととうとうとする小春かな	則岡 弘士
冬めきて鳥の埒静まりぬ	壺井 仙岳
野放図に枯れ枝の伸び冬めきぬ	吉井 聖倅
父母に心配ばかり咳込む子	松原 氣宏
六甲の木立も暗く冬めける	香山 道宣
沖の島かき打ち帰る小舟かな	池西 清栄
牡蠣船をもちやしし岸の波ゆれる	神品 平
比良紅葉異僧つくりし薬草園	橘 恵子

余韻会 (俳句同好会)

平成二十六年一月二十三日 於 ホテルオークラ神戸 山里

握手する明日の宴に胼薬	本郷 桂子
あかぎれの手元せはしき八百屋かな	執行 執艸
初風呂も御神酒も控え病んでをり	高石 潜菴
シクラメン部屋の冷氣を和らげり	白羽 子誠
それぞれに人それぞれの年始	則岡 弘士
鞆を隠すでもなき匠かな	壺井 仙岳
授業せず雪合戦の運動場	吉井 聖倅
母偲ぶ鞆の手で農作業	松原 氣宏
きらきらと光輝く朝の雪	香山 道宣
風呂上りひびの手入の母思ふ	池西 清栄
あかぎれの手をこすりつつ畑に出る	神品 平
初買や店主ひとりのからすみ屋	橘 恵子



「赤い花」

絵と文 太原 晃一

実家の温室の中の花々を育てるのが、父親の趣味でした。
特に洋蘭の栽培が好きだった父親の傑作が、この赤い花です。

CONTENTS

職業奉仕月間・米山月間「CLP って何だ」	1
青少年のための月間	4
米山月間	5
新入会員自己紹介	6
親睦家族旅行	9
親睦・家族忘年会	11
青少年奉仕委員会「王子動物園絵画教室」	13
青陽東養護学校招待ボウリング大会	14
合同例会	15
(神戸東、神戸東灘、神戸六甲、神戸ベイ、神戸東プロバスクラブ)	
例会スナップ	17
余韻会	19

編集後記

今年度の半分が過ぎ、いよいよ4月には創立60周年記念式典・祝賀会が開催されます。私はまだ入会して3年目ですが、50周年誌を拝見し、私の誕生年も含めた、神戸東RCの活動の歴史、諸先輩方のロータリーに対する思い・体験など、入会3年目では計り知れない伝統の重さを感じました。

この度の会報は、被災地である東北親睦家族旅行、東クラブを親とする5クラブ合同初釜例会などなど、60周年の年にふさわしい行事内容の記事となっております。

雑誌会報委員長 田中 寿夫